

「書くこと」の指導 [2]

— 他技能へつながる writing —

山下 敦子 Yamashita Atsuko (岐阜市立明郷中学校)

① 「静」と「動」

私の実践の中で、書く活動は大きく2つに分けることができます。1つは「静」で、もう1つは「動」です。「静」の writing というのは、文字通り、黙って静かに書くというものです。前回の授業レポートで取りあげた体育大会の感想を書くというのは、「静」の writing にあたります。心の高ぶりはあるものの、ざわざわした雰囲気ではなく、黙って静かに自分の思いを文字にしていくという活動です。もう1つの「動」の writing というのは、speaking につながる writing です。簡単なスピーチを目標にし、ゴールを自分でイメージしながら、作業を進めていくものです。この場合は、書きながら、英文を声に出して読んでいきます。書く活動を通して、話す練習をしていくわけです。1文書いたら、1文読みあげる。2文、3文と足していくごとに、もう一度、最初から読みあげて、文のつながりを見ていきます。いわゆるスピーチの原稿づくりなのですが、この作業は、生徒たちが、ワイワイと声を発しながら進めていきます。隣の生徒や、班の仲間が言った文を、「ああ、その文いいねえ」などと言いながら、どんどんまねし合ったりもします。こうすることで、仲間同士の教え合いができます。

ただ、表現させるためには定着させる必要があります。この段階の活動としてお勧めするのは、関係代名詞を使ったカルタです。uncle, aunt, monkey, horse, computer などといった人物や動物、ものを表した単語カードを20枚ほど並べます。読みあげる文は、This is an animal which can run very fast and can be seen in Kasamatsu. (※岐阜には笠松競馬場があります) とか、This is a person who is a sister of one's mother or father. という文です。動物のカードも人のカードも複数枚あるので、関係代名詞の先行詞まででカードを取することはできず、関係代名詞以降も集中して聞き取らなければなりません。受験を控えた3年生の生徒たちが精神的に疲れてきた頃に、この活動を取り入れると、どんなクラスでも、どんな状態でも、元気になります。関係代名詞を理解するというより、キーワードを聞き取れば活動には参加できますから、どんな生徒でも楽しめます。このように、関係代名詞を何度も耳から input していくと、生徒たちにとって、This is a boy who ..., This is a dog which ... などという文は、苦痛ではなくなります。そうなったときにうってつけの活動が、次に紹介する実践です。

② 書く活動を行う前に

今回紹介するのは、3年生の後期に学ぶ関係代名詞を扱った実践です。関係代名詞は、現在の学習指導要領上では理解の段階にとどめるという文法事項です。ところが、この関係代名詞は実際にはよく使われ、知っていると非常に便利な構文です。理解の段階にとどめておくには、もったいない構文の1つで、私は授業の中で表現させることもしています。

③ This is a robot which ...

生徒たちは、現実の世界から離れ、想像することがとても好きです。今回は、生徒に次のような投げかけをします。

「あなたは、株式会社 YAMATSU の開発部の優秀な社員です (ここで優秀という形容詞をつけることが大事です。ちなみに YAMATSU とは、私の名前からつけたものです)。YAMATSU の社長は、もちろん私です。今回の社長からの指令は、『世の中に

役立つ商品を開発しろ』です。さあ、どんな商品を
開発してくれるかな?」

開発商品のプレゼンテーションの手順

手順1: 世の中に必要とされそうな商品をイメー
ジし、その商品の説明を考え、プレゼン
原稿を書く。[writing]

手順2: 各支店の中でそれぞれがプレゼンテー
ションをしたあと、支店長が中心となっ
て話し合い、支店代表を決める。
[speaking]

(ここでは、班ではなく支店、班長ではな
く支店長と言います。支店長と言われる
だけで、気分の乗る生徒もいます。)

手順3: 各支店の代表作品をクラスで発表する。
また、他の支店の発表を聞く。[speaking,
listening]

手順4: 各支店の代表作品のプレゼン原稿を読み、
消費者としての意見を書く。[reading,
writing]

(発表を聞くときは、プレゼン原稿を見ず
に聞くだけに徹し、その後確認の意味で、
商品のプレゼン原稿を読むようにします。)

書き出すときは、イメージした商品を簡単に絵で
描くことから始めます。絵を描くと初めて‘this’と
いう言葉が生きてきます。最初に自分の開発した商
品名を言っても、最後に言っても、それは自由。と
にかくどう相手をひきつけるかが問題。大事なこ
とは、その商品で何ができるかということ。どんな
ときに、どんな風に役立つのかということです。これ
も、いきなりでは書くことができませんが、最初に、
私が社長としてモデルを見せ、その説明を聞かせま
す。そうすることで、どんなふうにか書いたらいいの
かがわかります。また、関係代名詞も自然に入って
きます。そこには、前述の関係代名詞のカルタを何
度か繰り返し行っているという事前のinputがある
からです。

生徒が書いた文を2つ紹介します。

生徒の作文(添削前)

This is "Nounai Helper".
This is a robot which can teach anything.
When we can't study, this Nounai Helper will help
you.
And it's very small.
It is 0.1 meters tall, so when we have tests, we are
taught by it.
But you can use this only three times.
So be careful.
I can't put price tags, because there is a value
which we can't buy.
But if I put price, it is 300 yen.
Why don't you buy a thing that money can't buy?
We have only a few Nounai Helper.
So come soon.

4. プレゼンに向けて(手順1)

「あなたは、社内でも NO. 1 の新商品開発部員で
す。今回も、新しい商品をつくりました。社内での
プレゼンテーションが明日あります。頑張って、原
稿を仕上げてください。」

このような指示を出し、次のようなワークシート
を用意して原稿を書かせます。

<p>ここには商品の イメージを描か せる。</p>	<p>株式会社 YAMATSU 商品開発部 社員名:</p> <p>.....</p> <p>A4判で、20行ほどの 罫線をいれておく。</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
------------------------------------	--

This is great. This is a secret pen.
This is a pen which we can see in many places,
but when we use it, it makes us surprised.
Do you know why? Because it is a special pen!
This pen isn't a normal pen.
I have done something interesting.
For example, when I am sleepy, the electric power
makes us awake. So I can't sleep.
I think that it is good for Jukensei.
You can see history's nengo.
I can't remember the nengo.
In such a time, it can write 1192 on the answer
sheet. 1192 is the year when Kamakura era
started.
So I can solve the problem.
But it has a big problem.
It can teach easy things.
For example, 1+1=2, oxygen is O2.
But this can't answer to difficult questions. So this
is not so useful for Jyukensei. But why don't you
buy it?

このような文を書くときには、黙って書くのではなく、隣の生徒や班の仲間と話しながら、ワークシートに英文を書いていきます。書いたら、書いた文を自分で口に出して読んでみるように指示します。

また、わからない表現はあえて難しい英語に直しません。難しい英語を使ったとしても、のちにプレゼンをしたときに、みんなにはわかってもらえません。あくまでも習った構文で、自分たちの力を超えない範囲内で、英語を書くことを目標とします。言いたいことを3年生で学習した構文を利用してうまく表現できている場合には、それを板書したりしながら、学級で広めていきます。

うひとひねりします。自分が気に入った商品についての感想を英語で書くという活動を取り入れます。発表を耳で聞いたあとに、そのプレゼン原稿をコピーして配り、読ませます。自分が気に入った商品のプレゼン原稿をもう一度改めて読み、『消費者の声』として感想を書きます。ここでは感想を書くときの書き出しだけを指導します。

I am interested in I want to buy

I want the robot which is made by

これだけ与えれば、何がどういいのかを、原稿をまねしたり、自分のつくった商品と比較したりしながら、書きすすめていくことができます。

5. さあ、発表(手順2,3)

さあ、原稿が完成しました。次は、支店(班)内のプレゼンテーションです。自分が描いたイメージの絵を見せながら、読みあげていきます。

生徒の作文(添削前)

I want to buy Nonai Helper, because this is the robot which can teach anything. I like Nonai Helper better than anything else. If I buy this robot, it will help me and I can enjoy using it every day. I hope using this robot makes me happy.

株式会社 YAMATSU () 支店
支店長名: _____
商品開発部 社内プレゼン (日付) _____

NAME	熱意 (アピール度)	英語らしさ	説明の量	商品の 面白さ
班員の名	簡単な文章で評価	◎○△	◎○△	◎○△

I am interested in "Secret Pen", because I have to study hard every day. But I can't remember the nengo. And I can't keisan, too. So I need "Secret Pen". I can hide "Secret Pen" in my pen case. I have wanted such a robot like this for a long time. I am happy to see the robot made by Ayaka. I want the robot made by Ayaka. How about you?

このワークシートを使いながら、お互いに評価して、支店代表を決めます。このとき、発表の仕方をポイントにするのではなく、あくまでも書いた英文の内容や量にこだわりたいものです。おもしろおかしくアピールしたから代表になるということがないようにするため、単純に合計得点を出して決めるようなことはせず、支店長を中心とした話し合いで選んでもらいます。実際には、本社(学級)での発表を控えますから、いい加減なものを選ぶとはしません。支店代表が決まったら、本社で発表します。

7. 活動を一連のものに

今回の実践での成果としては、writing で始めて writing で終わるといった活動なので、形となって残り、生徒たちの理解度、定着率は speaking だけの活動よりも高いものになったと思われます。定期テストでも、この授業でつくった原稿をスピーチとして出したのですが、多くの生徒が自分や仲間のつくったスピーチを覚えていました。学習活動そのものを一連のものとしたり、学習活動(領域)のバランスを考えたりしたことが、生徒の学習意欲の持続につながったとも思われます。何よりも、このような活動をするたびに、生徒の思わぬ発想力に脱帽します。

6. さらに writing をもうひとつ(手順4)

ここで、活動としては終わりそうなのですが、も